

アレルギー性副鼻腔炎の鼻手術

北陸アレプロとは： 事業内容とウェブ講義概要

坂下雅文氏¹・八尾 亨氏²
上野貴雄氏³・館野宏彦氏⁴
藤枝重治氏¹

はじめに 北陸アレプロとは

「北陸高度アレルギー専門医療人育成プランの事業教育プログラム」（北陸アレプロ）の概要と調査事業について、そして今回の一連のウェブ講義の概要についてお話しいたします。

北陸アレプロとは、文部科学省による2019年度大学教育再生戦略推進費「課題解決型高度医療人材養成プログラム」に北陸の3つの国立大学（福井大学、富山大学、金沢大学）が応募し採択されたもので、アレルギー領域では全国で唯一採択された新しい取り組みです。

北陸は全国的に見るとアレルギー専門医の少ない地域です。専門医はどうしても中核都市周辺の医療圏に集中してしまうからです。そのため患者さんのアレルギー専門医への紹介や受診が困難となり、臨床研究も自ずと少なくなってしまう。また小児アレルギーエデュケーターという職種の資格維持も困難となっていきます。そこで上記3つの大学のアレルギーに関係する診療科が協力して今回の育成プランを担っていくこととなりました。

達成目標は、「北陸地域のアレルギー疾患診

療の均てん化を目指す」ことです（スライド1）。具体的には「総合アレルギー専門医の育成」、「アレルギーもわかる総合診療医の育成」、「災害時にもアレルギーに強い臨床医の育成」、「研究マインドを持ったアレルギー臨床医の育成」そして「診療科の枠を超えたアレルギー専門医療スタッフの育成」の5つを目標に掲げ、教育プログラムとして「本科コース」と「インテンシブコース」の2つのコースを作りました。本科コースは2つ、インテンシブコースは4つの実施項目を掲げており、30名の医師、薬剤師、看護師にこの教育プログラムを受けていただくことを目指しています。

中でも私たち耳鼻咽喉科医に関係するものは「多職種による症例検討会」と「難治性アレルギー疾患データベースの構築」です。「症例検討会」とは北陸三県のアレルギー疾患医療拠点病院と地域病院の医師で行うもので、このウェブ講義がそれに当たります。インテンシブコースの1つとして好酸球性副鼻腔炎を中心とした手術療法についての講義を予定しており、これについては後ほどお話しします（スライド2）。

1：福井大学医学部 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 2：金沢医科大学 耳鼻咽喉科
3：金沢大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 4：富山大学医学部 耳鼻咽喉科頭頸部外科

事業の構想・具体的な達成目標



北陸地域のアレルギー疾患診療均霑化を目指して

- 総合アレルギー専門医の育成
- アレルギーもわかる総合診療医の育成
- 災害時にもアレルギーに強い臨床医の育成
- 研究マインドを持ったアレルギー臨床医の育成
- 診療科の枠を超えたアレルギー専門医療スタッフの育成



教育プログラム 本科コース：2 インテンシブコース：4
⇒ 30名の医師・薬剤師・看護師等を輩出



アレルギー疾患医療
拠点病院

共通選択科目・単位互換制度



TV会議システムを利用した遠隔教育（e-learningの作成）

アレルギー疾患医療拠点病院と地域病院：多職種による症例検討会（1回/月）

映像送付システムを利用した遠隔診療体制構築への展開

北陸アレルギーセミナーによる研究・診療等の学習（1回/年）

難治性アレルギー疾患データベース（遺伝子含め）の構築：全国規模への展開

スライド1

各大学の耳鼻咽喉科がアレプロで実施すること

アレプロの事業計画

難病調査

- ① 難治性副鼻腔炎調査
- ② 難治性アレルギー性鼻炎調査

症例検討会

- ③ 手術療法ウェブ講義
 - 北陸三県の鼻関係者の技術向上
 - 北陸三県の鼻関係者の交流目的
 - 聴衆、座長、演者相互の交流

スライド2

難治性アレルギー疾患 データベースの構築と展開

「難治性アレルギー疾患データベースの構築」については、難治性副鼻腔炎、難治性アレルギー性鼻炎の調査を共同で行っていく予定で、データベースを構築し、全国規模で展開していくことを目標に掲げています。好酸

球性副鼻腔炎についてはJESREC Studyという全国多施設共同大規模疫学研究が行われ、診断基準が作成されましたが、JESREC Studyでは術後あるいは保存的療法における予後調査も実施されており、北陸アレプロの事業計画にはこの検証調査の実施も含まれています。また、アレルギー性鼻炎にも難治性のものがありますので、ステロイドを使用しなければならないような難治性アレルギー性鼻炎の患者さんがどの程度いるのか、またどのような治療を行っているかについての調査も、アレルギーに関する難病調査事業として北陸三県で行うことになっています。すでにJESREC Studyには金沢医科大学の三輪高喜先生、八尾亨先生にご協力をいただいておりますが、今後は北陸アレプロの事業の中において金沢大学や富山大学の先生方にも参加していただくことになっています。

難治性副鼻腔炎の調査については、各大学のオーガナイザーを通して、関連病院や協力施設で行っていただくことになるかと思いま

す。具体的には手術療法や保存的療法を行った患者さんの症例報告、治療開始後1~6カ月における患者さんの症状アンケートや鼻内所見についての調査を各大学の医師が行います。この内容をelectronic data capture (EDC) というウェブシステムに入力していただき、その後は解析を行います。各大学の症例は各大学のものとして集積しますので、それらのデータを調査・集積結果として自由に活用いただける利点があります。難治性アレルギー性鼻炎についても同様のフォーマットを用意しています。

手術療法ウェブ講義について

最後に今回の講義「アレルギー性副鼻腔炎についての手術療法ウェブ講義」(手術療法ウェブ講義)についてお話しします。北陸アレプロ事業の一環として毎月1回、1年にわたって鼻の分野において著名な先生方に講義をしていただきます。北陸三県4大学の鼻科に携わっておられる先生方の手術の技術向上や聴講者、座長、演者相互の交流の場になればと思っております。各講演では北陸三県4大学において鼻の手術に携わっておられる専門の先生方にオーガナイザーとして座長を務めていただきます(スライド3)。金沢医科大学からは八尾 亨先生、金沢大学からは上野貴雄先生、富山大学からは舘野宏彦先生、そして福井大学からはわたくし坂下です。皆さんが鼻の手術や鼻の治療について、より広くより深く勉強する機会をこの4人を中心に運営していきたいと思っておりますので、ぜひ勉強していただきたいと思っております。

<今後のテーマと講師の紹介>

各地の大学には手術研修会があり、有名な施設としては東京慈恵会医科大学、京都大学、獨協医科大学が挙げられます。また北海道大学の手術研修会には世界的に有名なオーストラリア アデレード大学のP J Wormald

各県のウェブオーガナイザー

北陸高度アレルギー専門医療人育成プラン
プロジェクトサブリーダー 藤枝重治(福井大学)
ウェブ講義オーガナイザー
坂下雅文(福井大学) 上野貴雄(金沢大学)
八尾 亨(金沢医科大学) 舘野宏彦(富山大学)

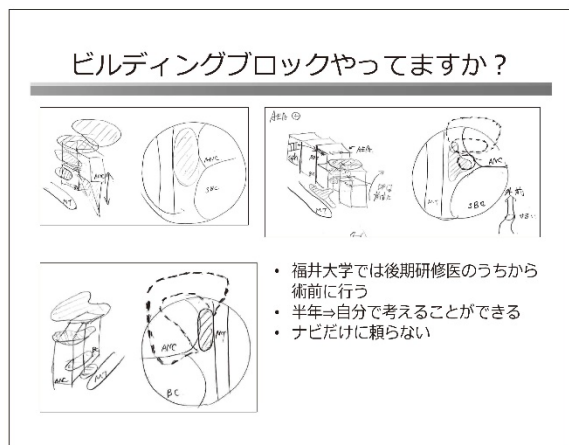


関連施設への連絡、講演の座長

スライド3

先生が来られました。昨今は名古屋市立大学でも手術研修会が開催されています。また、西日本ESS研究会(旧AKK)という会もあります。さらに東京慈恵会医科大学の大村和弘先生を中心に、カンボジアの若い医師に手術を教える手術研修会も開催されています。このような各地の手術研修会に私も参加し、そこで知り合った先生方に今回の手術療法ウェブ講義の講師をお願いしております。

さて、皆さんも手術にあたって準備をされると思いますが、最近はビルディングブロックというコンセプトが重要だといわれています。福井大学では後期研修医のうちから術前に指導医とともにビルディングブロックを記載するよう指導しています(スライド4)。半年以上が経ちましたが、段々と自分で組み立てることができるようになっていて実感します。ビルディングブロックができるようになると、ナビゲーションだけに頼らず副鼻腔の構造を理解し手術を進めていくことができますので、事故の防止にもつながると考えております。そこで今回の手術療法ウェブ講義では、前半に解剖の構造をしっかりと理解したうえで手術を行うことの重要性をお話しいただく予定です。第2回の講義では東京慈恵会医科大学の森 恵莉先生に、第3回は北海道大学の鈴木正宣先生に、第4回に



スライド4

は苫小牧市立病院の志津木 健先生にご講演をいただきます。また、手術に関するテキストも出版されていますので参考にさせていただければと思います**スライド5**にお示しします。北海道大学のテキストはWormald先生のテキストを鈴木正宣先生が日本語訳されたものです。また、慶應義塾大学のテキスト作成には志津木 健先生がかかわっていらっしゃいます。

続く第5回では松脇クリニック品川の松脇由典先生より術後管理と成績についてお話をいただきます。松脇先生は東京慈恵会医科大学で講師をされ、現在クリニックで手術もされています。第6回は局所麻酔の使い方について、東京慈恵会医科大学の大村和弘先生にお話をいただきます。大村先生の講義内容を習得すると好酸球性副鼻腔炎であっても手術時の出血はほとんどないということです、大変参考になるものと思います。

そして第7回は島根大学教授の坂本達則先生より、経鼻内視鏡手術で注意すべき副損傷とその対策についてお話をいただきます。坂本先生は京都大学の手術研修をオーガナイズされていた先生のお一人です。

さて、手術療法ウェブ講義は、上記の第7回までの授業で内視鏡下鼻副鼻腔手術 (ESS) のコンセプトと必要不可欠な知識を学べるように構成しており、その後はアドバンスの



スライド5

内容となります。

近年、難治性疾患には抗体療法も実施できるようになってきました。第8回では抗体療法を非常に多く経験されている昭和大学の平野康次郎先生のお話を伺い、その実践を学びたいと思います。そして第9回では、好酸球性副鼻腔炎の手術のみならず外傷手術にも携わっておられる旭川赤十字病院の高林宏輔先生より、すぐにでも実践できるような知識をお話いただく予定です。第10回では三重大学准教授の小林正佳先生に嗅覚温存手術について専門的にお話しいたします。第11回では実施されている施設は少ないかもしれませんが前頭洞単洞化手術 (Draf type III) について取り上げます。大きく開放した前頭洞は術後に閉塞しやすいのですが、粘膜弁の作成方法によって閉塞率がかなり改善します。こちらは古賀病院21の御厨剛史先生にご解説いただきます。また、副鼻腔の内圧によって炎症がなくても頭痛が起きるといふ非

常に臨床に直結したお話もいただきます。そして最終回の第12回では東京慈恵会医科大学の大村先生に再度ご登場いただく予定です。鼻腔の腫瘍を切除する際は術野の確保が難し

いものですが、大村先生の考案された“TACMI法”や“DALMA法”など非常に魅力的なお話を聞けるものと思います。

(了)